

市町村指定文化財取材票 <<表>>

取材日	2023年	8月	5日	(記入者) 山口 恵一	
取材参加者	石井	井本	小西	田中	西田
	本井	宮本	山口		
取材対象先	奈良市：春日神社の拝殿（舞台）				

所在地	奈良市下深川町1327				
所有者（取材対応者）名	春日神社 ***氏（宮守）、***氏（宮守）			連絡先 ***氏	
	***氏（下深川町自治会長）（個人情報守秘）			PCアドレス	
取材申込	***氏（下深川町自治会長）				
市町村指定文化財	彫刻	軀	名称（指定年月日）		
	建造物	1 棟	春日神社拝殿(舞台) 2018(平成30)年3月29日奈良市指定（1970(昭和45)年3月7日旧都祁村指定）		
文化財指定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市東部地域の神社には茅葺の舞台が四棟残っているが、この建物は本殿のすぐ前にあり拝殿の機能を備える点が特徴 ・平面が約5.0m×4.5m正方形ではないところがこの種の建物としては珍しい ・簡素ではあるが、柱や梁が太く、天井や墓股を備えるなど入念な造りの建物 ・奈良市東部地域の舞台形式の拝殿の姿をよく伝えており、当地域における神社拝殿建築の典型例の一つ 				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	奈良市指定文化財となり、火災報知器の設置に補助があり設置済。また、点検作業は奈良市負担にて行われている。 舞台上に“禁煙”、“火気厳禁”、“危険物品持込み厳禁”の看板有、舞台裏板塀部に同様の文言が書かれた立て看板有。	貴重な文化財を維持、継承することができる奈良市の補助が有効に使用されていると感じた。
獣害対策	被害の有無、対策など アライグマが出没し、拝殿の柱に登り天井裏に入ったり、茅を引き抜かれたりすることがあるため、すだれを利用し天井裏に入れないように敷設している。奈良市から天井への獣侵入防止対策の補助金予算がつき、施工予定であるとのこと。	記入者の感想 アライグマは本来外来種であるが、身近な場所で出没し対策が必要になり、捕獲罠も設置している。奈良市の補助金があるので対策ができることで一安心だと感じた。
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	今回の取材対象は拝殿であるが、春日神社を構成する一つで、春日神社を保存継承するために、20年に一度の“造営（ぞうく）”（大規模修繕）が行われ、その中間にあたる10年目に“中造営（なかぞうく）”（塗装等の維持管理補修）が行われている。拝殿の茅についても、4年前に一部部分的に葺替えを行った。今後、より材料調達等が難しくなるのではとのこと。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

地域の活動として、氏子43戸の方が、毎月第一日曜日に“朔幣（さへい）”と言われている行事を社務所及び拝殿で行われており、また順番制にて2人一組となり月交代で神社の世話（見回り、清掃、行事手伝い等）をする堂下（どうげ）という制度があり、神社の管理が行われている。奈良市指定文化財である拝殿においては、奈良市の補助金にて火災報知器を設置、加えて獣侵入防止対策工事も決定しており補助金を有効に使用されている。しかし、以前は各家の長男2人が1年間堂下となって神社の世話をしていたが、今は順番制というように継承方法についても制度を緩和すべきところは緩和し、伝統を守るべきところにおいては守り継承していくことへの難しさがあるとのこと。どの地域においても保存継承する人員不足、継承方法及びそれに伴う費用の捻出が今後の課題である。

市町村指定文化財取材票 <<裏>>

取材日	2023年	8月	5日	(記入者) 山口 恵一	
取材参加者	石井	井本	小西	田中	西田
	本井	宮本	山口		
取材対象先	名称：春日神社の拝殿（舞台）				

※ 写真撮影許可済

文化財指定名：春日神社拝殿（舞台）

文化財：（正面写真）



文化財：（角度を変えて）



橋懸かり(以前の橋懸かりの痕跡も残る)



天井付近の様子



アライグマによる被害(茅の引抜)

火災感知器の設置
(拝殿天井)

文化財の由緒などを記入

本殿の前に建つ拝殿（舞台）は、入母屋造りの茅葺屋根で、平面約5m×4.5m、柱断面が35cm角、床高約70cm、7坪余りの建物で、江戸時代末期まで神事能楽が奉納されていた。宮守さんより1990(平成2)年造営（ぞうく）にて社務所、参籠所の新築に伴い拝殿が現在の位置にクレーンで吊り下げ移動されたとの談話があった。移動に伴い橋懸かりの位置も替り、以前の橋懸かり位置が残っている。また、2010(平成22)年造営（ぞうく）にて拝殿の茅葺屋根の葺替えが行われた。

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

春日神社は、全国に約1,000社ある春日系列（奈良市の春日大社を総本社）の神社で、奈良県内に140社余りあるうちのひとつ。南北朝時代の1386年（至徳3年）の文書に大乘院領下深川庄と記され、深川氏が春日神社を勧請したものと思われると神社案内板に記載されている。社殿は春日造り（桁行、梁行とも約76cm、向拝つき屋根厚板葺き）で春日四神と若宮の神の五社が並立する貴重な神社である。現在においても拝所より本殿前に上る階段に足を踏み入れることについては伝統を守られ氏子中でも限定されている。